

文部科学省令和6年度「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の『職』の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

土曜日の集中講義での多層型交流による  
キャリア支援ネットワークの構築 &  
養成校の共同による高校の保育コース等  
への出前授業「進路展望プロジェクト」

大阪教育大学 戸田有一・中橋美穂  
with 大阪総合保育大学・名古屋市立大学・岐阜大学の先生方  
下呂市・高山市・岐阜市・大阪府の園や高校の先生方

## 1 事業全体の概要

### 1) 本事業に取り組むにあたっての課題背景

「土曜日の集中講義での多層型交流によるキャリア支援ネットワークの構築」（以下、「集中講義」と略記）と「養成校の共同による高校の保育コース等への出前授業『進路展望プロジェクト』」（以下、「授業交流」と略記）のそれぞれについて、課題背景を整理する。

#### ①「集中講義」に取り組む課題背景

本学の幼児教育専攻卒業生の教員就職率（認定こども園や小学校を含む）は、過去5年間、50.0%、91.7%、66.7%、86.7%、81.3%と、定員が15名と少ないため、数名が企業・公務員就職をすることで大きく変動してきた。そのなか、特に問題に感じているのは、成績優秀であった卒業生を含め、数年での早期離職者が少なくないことである。受け入れ側の園に、毎年早期離職者を出すような園があることも問題であるが、そのような園でも継続して勤務している卒業生もおり、マッチングの重要さも痛感する。本学の幼児教育専攻では、①卒業生のメーリスで再就職の情報を提供（取組E）、②オープンキャンパスと同時にホームカミングデーを開催（取組C、取組J）、③卒業生を非常勤講師、実地指導講師として迎える（取組D）、④新歓セミナーやゼミ合宿等での卒業生の勤務園訪問（取組D）を、専任教員が協働し、非常勤講師の支援も得て行ってきた。

しかし、卒業生間の関係もだんだん疎遠になってきたことや、在学中に活躍していた卒業生が早期離職をしてしまうなど、懸念される現状がある。

#### ②「授業交流」に取り組む課題背景

今まで、本学に保育者を目指して入学してきた学生のなかには、マーシャのアイデンティティステイタス分類での「フォークロージャー」に該当する学生もおり、入学後に、就学前教育以外の企業などへの進路変更をする者も少数ながらいた。

変更の自由があり自主的選択ができたとも言えるが、入学以前の進路展望と検討が不十分であった可能性もあり、大きな課題である。

申請者は、岐阜大学大学院での非常勤出講の機会に、岐阜県の斐太高校や益田清風高校での「進路展望プロジェクト」を支援してきた。それは、生徒が「会ってみたい」と希望する外交官、マンガ家、研究者などに生徒がオンラインインタビューする機会を準備し、その録画を生徒が編集し学年全体で視聴するなどの取り組みであった。また、京都大学の研究者とともに斐太高校で生徒とのパネルディスカッションを行い、それが地元ケーブルテレビで何度も放映された。このような「進路展望プロジェクト」を幼児教育・保育に特化して実践することで、上記の課題にも対応できる可能性がある。地元メディアでの報道が、地域全体における幼児教育という「職」のイメージの向上になり、各養成校の受験生の総数が増加することを期したい。

## 2) 本事業の目的

上記のような背景のもと、「集中講義」も「授業交流」も、複数の養成校の教員と学生が協働し、高校生や中学生に保育の魅力を発信することで、世代や所属養成校に限定されないネットワークを形成する機会となることを目指し、多層型交流をより豊かにすることが目的である。そのことが、中学生と高校生のよりよい進路展望につながることを期する。

また、当初は、多層型交流としての「集中講義」と「授業交流」の付随的な活動と考えて「積み木作戦」「野菜作戦」と名付けていた活動を、「媒介型交流」の「積み木媒介交流」「野菜媒介交流」と位置づけた。いずれも関係者が一堂に会するわけではなく、積み木や野菜を媒介にして様々な組み合わせで交流と協働を行う活動である。

様々な種類の「取組」を包摂し、事業全体の眼目としては、以下の3つを目指した。

### ① 事業全体の概要【コンセプト】

- 1)養成校が連携し、地域全体の養成校受験者の  
**総数を拡大**
- 2)養成校の学生や現職者の間、そして地域間の  
**交流の促進**
- 3)離職した卒業生にインタビューをして  
**要因を探る**



第一に「養成校が連携し、地域全体の養成校受験者の総数を拡大」することを目指した。個々の養成校の受験者数を増やすには、まず、その前に養成校受験者の総数を拡大する必要がある。従って、複数の養成校が協働し、地域全体への働きかけを行うことが効果的であると考えた。

第二に「養成校の学生や現職者の間、そして地域間の交流の促進」を目指した。世代や地域を越えての交流により、相手の良さに気づき、また、自分たちの良さにも気づき、魅力の「自覚」が高まることで、「発信」の意欲が高まると考えた。

第三に「離職した卒業生にインタビューをして要因を探る」ことを目指した。今までも、離職した卒業生に個別に話を聞いてはいたが、構造的に要因を浮き彫りにするかたちでのインタビューはできていなかった。離職の理由は個々人で異なるものの、なんらかの共通項があるのではないかと考え、構造的なインタビューを実施する必要があると考えた。

## 2 各取組の実施内容・成果

当初の企画であった多層型交流のうちの「A 集中講義」と「B 授業交流」に加え、媒介型交流である「C 積み木媒介交流」と「D 野菜媒介交流」の4つのプロジェクトそれぞれについてと、「E 離職者インタビュー」について、1) 取組名 2) 取組内容 3) 取組の対象(参加者) 4) 取組のポイント 5) 取組の実施体制 6) 取組の実施報告 7) 効果検証の手法 8) 各取組の成果 9) 各取組の課題をまとめる。

### 【A 集中講義プロジェクト(「集中講義」と略)】

#### 1) 取組名 「集中講義」

#### 2) 取組内容

以前より、幼児教育専攻の集中講義では卒業生を非常勤講師や実地指導講師として招いているが、講師の規定により卒業間もない教員を招く枠組みがなく、在学生在が就職直後の姿を想像しにくい課題がある。そこで、卒業間もない世代からもゲスト講師を招き、就職への安心感やつながりを強化することを目指す。あわせて、ホームカミングデーとして卒業生同士の横のつながりを深める。さらに、近隣・近県の教員養成校にも幼児教育研究者のつながりで案内を行い、養成校生、現職者等の多層型交流を実施する。

#### 3) 取組の対象(参加者)

- ・受講者：養成校生(1回生37名、3回生以上19名)
- ・ゲスト講師・実地指導講師：本学卒業等の現職者(6月2名、7月2名、10月7名、11月4名、12月1名、1月1名)
- ・ゲスト講師：そのほかの現職者(10月4名、そのうち1名は近隣養成校の卒業生)、岐阜県の現職者(10月2名)

#### 4) 取組のポイント

- ・なるべく幅広い年齢層のゲストを招く。と同時に、同年代の卒業生のホームカミングデーの機会ともなるようにする。
- ・非常勤講師の本務校の学生の参加を促す。教育大学協会の近畿の幼児教育部会の先生方にも、集中講義のたびに案内を送信する。

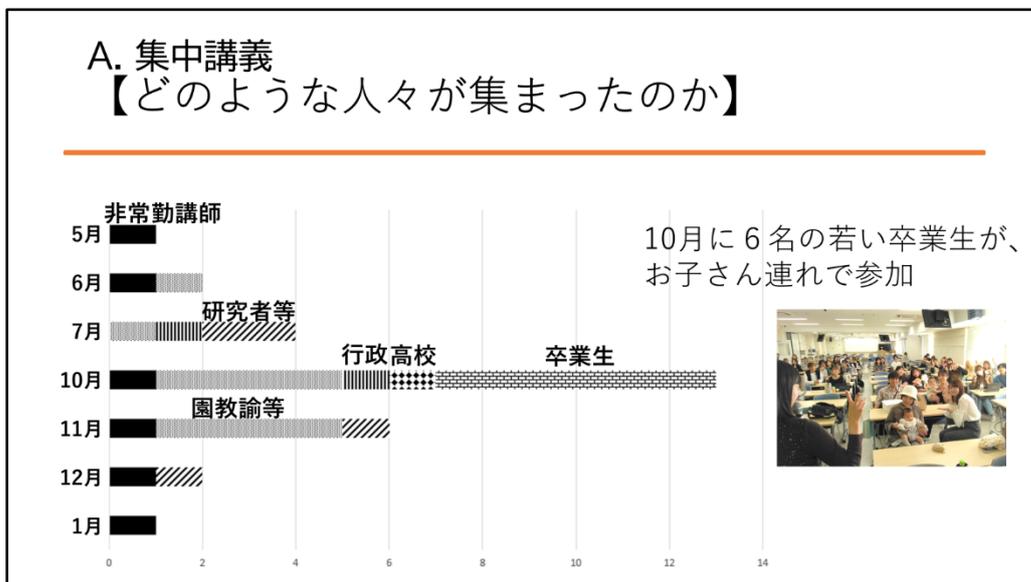
#### 5) 取組の実施体制

- ・大学：イベント企画・運営
- ・大阪市立幼稚園等：登壇者連携協力

#### 6) 取組の実施報告

- ・6月、7月、10月、11月、12月、1月の土曜日に実施した集中講義の機会に開催した。
- ・それぞれ2か月以上前から登壇を依頼し、1か月前に出張や謝金の手続きを行い、宿泊先選択なども支援した。

- ・開催前日に打合せを行い、開催後の学生の感想へのスプレッドシート上の「コメント」もゲスト講師に記入いただいた。
- ・養成校生若干名は、岐阜県の現職者と交流を行い「C.積み木作戦」「D.野菜作戦」などの活動につなげた。



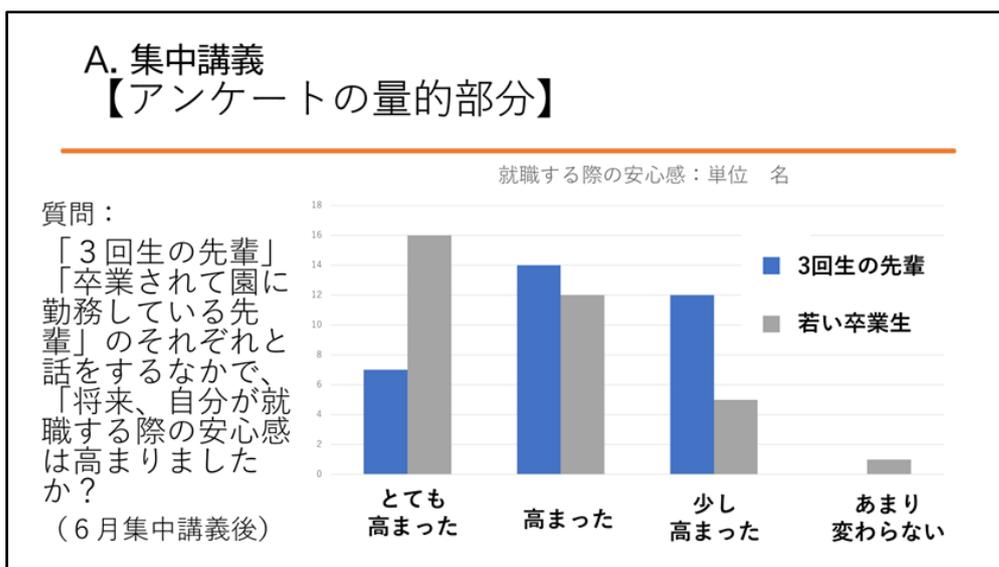
## 7) 効果検証の手法

受講学生へのアンケート（オンライン）

項目数が多いと負担になるので選択式の2項目と自由記述

## 8) 取組の成果

受講生に「将来、自分が就職する際の安心感が高まりましたか？」とアンケートを行った結果、3回生の先輩との交流でも安心感は得られたが、年齢の近い卒業生との交流の方がより安心感につながる傾向が見られた。



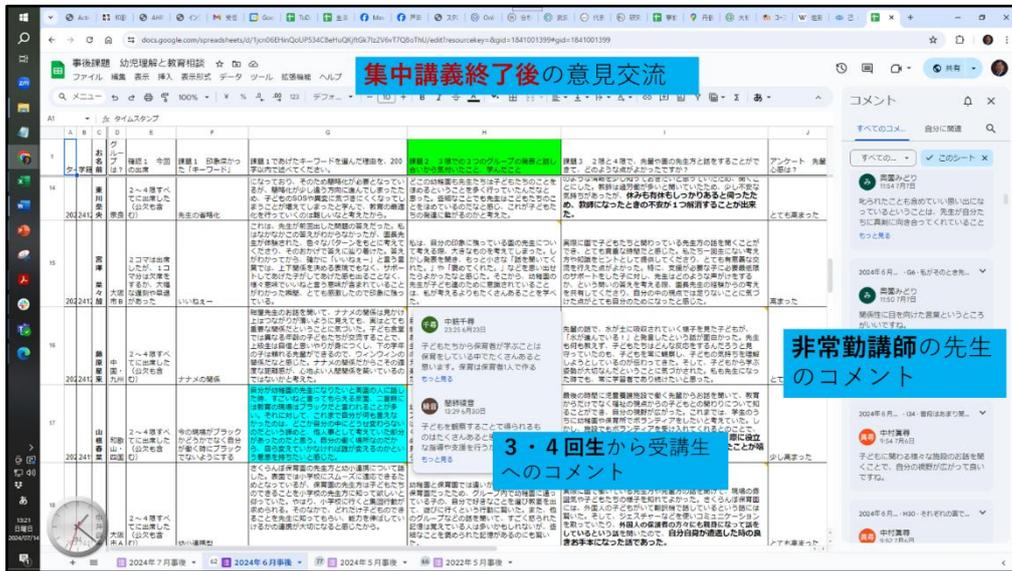
3 回生は、卒業生からのお話を聞くことで将来を考える参考になったとともに、卒業生からのアドバイスを受ける中で、幼児教育に対する考え方を深めることができた。また、ゲスト講師と親交を深め、これからの活動にも繋がりを持たせることができた。

自由記述部分でも、下記のようなコメントが多数寄せられた。

### 6月の集中講義での1回生のコメント

- ・今立派に働いている先生たちも、自分たちと同じような過程を経験して今に至るんだなということを感じることができた。さらに、**幼児の言動というのは本当に面白いものばかりで、教育者という仕事はそれを間近で体験することができる楽しい職業だというのはこれでもかというほど伝わった。**
- ・入学してから今までの授業では以前現場にいた先生からの話を聞かせていただくことはあったが、**現役の年齢が近い先生からお話を聞かせていただくのは初めてで新鮮だった。**自分と年齢が近いからこそ、リアルな現場の様子や大学時代のお話も聞かせてもらえてとても貴重な時間だった。

さらに、オンラインで毎回、受講生、3回生、ゲスト講師、非常勤講師の意見交流が活発に行われた。



## 9) 取組の課題

在学生と近隣・近県養成校の大阪府・大阪市内での就職希望者の交流支援を行う予定で、メールでの案内や大阪大谷大学からの非常勤の先生からの学生への案内などを行ってきたが、実際には近隣養成校の卒業生がわずか数名参加くださった程度で、学部在学生の参加は全くなく、大きな交流とすることができなかった。

## **【B 授業交流プロジェクト(「授業交流」と略)】**

### **1) 取組名 「授業交流」**

当初は「出前授業」という取組名であった。しかし、実際にプロジェクトを展開するなかで、高校の先生にも大学でのゼミや講義においでいただき、学生にお話をいただけることになり、結果的に一方的な「出前」ではなく行き来のある「交流」となった。

### **2) 取組内容**

今日、教師の職業はブラックであるという認識が広まり、教師を志望する学生は減少傾向にある。そこで、教師不足問題の解決のために、職の魅力を広める活動が必要である。今回は、養成校が地域にないため養成校生を増やすことがより一層困難と考えられる飛騨地域でシンポジウムや交流会を実施することで、高校生や保護者の方々が進学や就職に関する見通しをもつ機会を増やす。また、養成校生と大阪の公立幼稚園の園長先生などが下呂市や高山市の会場で交流することで、養成校生が自覚を持ち、自信を深める機会とする。

### **3) 取組の対象(参加者)**

- ・ 幼児・小学生・中学生(10月約20名):受講者
- ・ 高校生(10月:1年生9名 12月:1年生3名 1月:3年生14名と2年生8名 2月:3年生14名と1・2年生16名):受講生
- ・ 保護者及び地域の方(12月7名):聴講者
- ・ 養成校生(10月7名:12月7名:2月9名)

### **4) 取組のポイント**

- ・ 開催のちらしを作成し、広く配布することで、幼児教育への関心を高める。
- ・ 飛騨地域の各種メディア17社に取材を依頼することで、そのプレスリリースがメディアへの啓発となる。
- ・ メディアの報道により、さらに地域に職の魅力を発信できる。
- ・ 地元のイベントとの相乗りで実施をする。

### **5) 取組の実施体制**

- ・ 大学:イベント企画・運営
- ・ 幼稚園・保育園・子ども園:登壇者連携協力
- ・ 地元高校・教育委員会・市役所・NPO法人:広報(チラシ等)協力
- ・ 地元新聞社:取材協力

### **6) 取組の実施報告**

- ・ 10月中旬(高山市と下呂市)、12月中旬(高山市と下呂市)、1月下旬(下呂市)に実施。
- ・ 2か月以上前から参加者の日程調整と会場申請、登壇者の依頼、内容の検討を行い、約1か月前からチラシによる広報を開始し、約10日前から地元の幼稚園、教育事務所、市役所に案内するとともに、ケーブルテレビなどに電話で取材依頼。

# 2種類の多層型交流の実施の様子

## A.集中講義 B.授業交流



10月 高山市「村半」での交流



10月 「ニコリエ」での交流

## B.授業交流

### 【地域への魅力の発信】



### 7) 効果検証の手法

- ・ イベントへの参加人数
- ・ メディア取材の有無
- ・ 地元高校の「総合学科」生徒の「保育系列」選択人数（ハードエビデンス）

### 8) 取組の成果

高山市と下呂市の複数の高校から参加者があり、また、地元のイベントと共催をすることで、幼児から高校生までの幅広い年齢の参加を得ることができた。養成校生も、イベントの企画・開催に主体的に関与することで、幼児教育の魅力を発信する自信をつけること

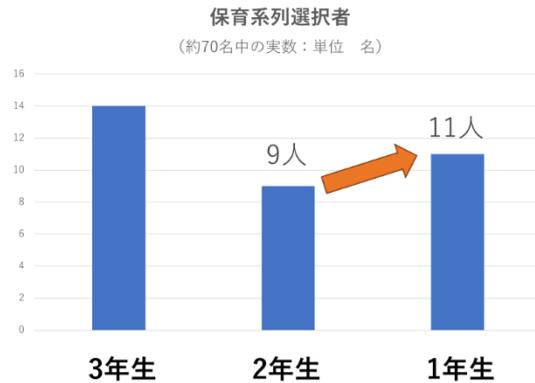
ができた。

益田清風高校の総合学科1年生の「保育系列」志願者数は、11名であった。3年生の14名から2年生は9名に減っていたので、やや持ち直したと言える。次年度以降もこの傾向を維持できるのかどうかにも着目すべきと思われる。

## B.授業交流 【高校の保育系列選択者の実数】

- 約70名の「総合学科」の生徒が、1年生時に「保育」「福祉」「観光」「食文化」の4系列から選択

若干持ち直した程度？  
本当の効果は次年度？



### 9) 取組の課題

大阪と名古屋と岐阜という広域での交流であったため、予算がかかり、また、旅費や謝金の手続きも膨大になった。そのすべての作業を少人数で行ったので、労力が膨大で同じことの継続は不可能であると感じた。

旅行者のインフルエンザ感染や、園の先生の病気などにより、いくつかの日程が影響を受けた。また、一度の出張で岐阜市・下呂市・高山市の3つの地域で7つもイベントを開催したこともあり、旅程も極めて複雑になってしまった。

(右がそのスケジュール)。

	12月14～16日 岐阜・下呂・高山 交流・講演ツアー	12月16日 最終報告
	岐阜市内 下呂市内 高山市内	高山市内
12月14日 (土)	<p>目的 積み木博交流 保護者を含む多層型交流</p> <p>10:00 伊予7名・特上・山口・戸田(大阪10名)岐阜到着</p> <p>10:52 学生7名(伊予のたこもの森)特上・山口・戸田・伊藤</p> <p>11:30 特上・山口・戸田 昼食 cafe茶人</p> <p>13:09 山口家・戸田 &gt;&gt;&gt; 14:28 下呂到着 山口で「ふたご一家と打ち合わせ」</p> <p>12:20 講演・学生 昼食 cafe茶人 17:07 戸田・新津・特上・山口 下呂到着</p> <p>17:21 戸田・新津・特上・山口 鳥羽到着到着</p> <p>14:45 学生7名+講師家 移動 &gt;&gt;&gt; 17:21 山口家+大阪10名+講師家 鳥羽到着到着</p> <p>17:30 山口家と打ち合わせなど</p> <p>17:30 夕食(弁当15)</p> <p>18:00 会場準備</p> <p>18:30 「子育て体験交流会」(作品展示も)開始</p> <p>20:30 終了</p> <p>### 山口家・講師家・学生7名 鳥羽駅前から下呂市アルへ移動</p> <p>21:00 新津・特上・山口・戸田 &gt;&gt;&gt; 21:49 高山市 ホテルへ</p>	講演会
12月15日 (日)	<p>山口家・講師家・学生7名 泊</p> <p>12月16日 最終報告</p> <p>9:30 山口家 以降自由 17時頃に帰宅</p> <p>11:00 学生7名+講師家 講演会</p> <p>9:30 「けんせいの魅力 あらいの教育」シンポジウム</p> <p>11:00 終了</p> <p>昼食</p> <p>2回生2名は、鳥羽駅前に移動(バス)</p> <p>午後 特上・山口 講演(高山市村まで観光バス)</p> <p>新津事務所は名古屋へ 13:11 鳥羽駅到着 &lt;&lt;&lt; 12:35 戸田・新津 特急のり10号</p> <p>13:30 わくわく科学体験教室</p> <p>15:00 終了</p> <p>二ツリで昼飯</p> <p>19:44 朝大阪 &lt;&lt;&lt; 16:19 2回生2名が大阪に帰る 3泊3日も &gt;&gt;&gt; 16:54 高山市</p> <p>15:57 戸田(講演準備) &gt;&gt;&gt; 19:00 特上・山口と情報交換会</p> <p>21:00 終了</p>	
12月16日 (月)	<p>17:40 岐阜到着 &lt;&lt;&lt; 特急のり6号 &lt;&lt;&lt; 9:36 戸田・特上・山口 移動</p> <p>18:30 昼食</p> <p>14:30 伊予のたこもの森 積み木博</p> <p>16:30 終了</p> <p>17:44 戸田・特上・山口 帰郷</p>	

## 【C 積み木媒介交流プロジェクト(「積み木媒介交流」と略)】

### 1) 取組名 「積み木媒介交流」あるいは「積み木作戦」

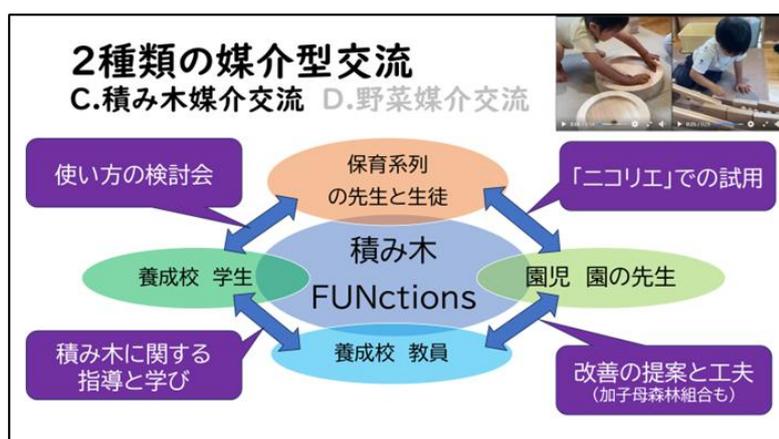
### 2) 取組内容

積み木媒介交流として、「FUNctions」という積み木を用いた集団遊びを岐阜県内・大阪府内の5か所の園で実施した。この積み木は、見える動きを共有できる「玉転がし遊び」を含み、子どもたちの協働的な遊びを促進する特徴を持つ。まず、養成校生と開発者が協力し、大型の積み木を用いてピタゴラススイッチ装置を試行錯誤しながら作成した。そのうえで、高校生・養成校生・開発者・教職員が参加し、小型の装置を共同制作するなどして、積み木の特徴や遊び方について学んだ。

そのなかで、養成校生が何度も FUNctions 開発者が園長を務める「いわのだこどもの森」を訪問し、子どもたちが積み木でどのように遊んでいるのかについて、話を聞いたり、作品を見たりした。

### 3) 取組の対象(参加者)

- ・養成校生(2回生2名、3回生5名、4回生2名)
- ・高校の生徒(2名)
- ・岐阜県の教員退職者や地域の方々数名
- ・岐阜県のこども園の園長



### 4) 取組のポイント

- ・積み木を開発しながらの取組であり、さまざまな専門家の意見をうかがう。
- ・領域「環境」の専門である教授の助言を得ながら、科研費(奨励研究)にも応募する。
- ・実際に試用いただく園の実践方針も尊重する。

### 5) 取組の実施体制

- ・大学: イベント企画・運営
- ・岐阜県の先生方: 運営協力

### 6) 取組の実施報告

- ・10月に大阪教育大学や「ニコリエ」で、積み木を媒介とした交流を実施。
- ・12月にいわのだこどもの森を訪問。

### 7) 効果検証の手法

- ・観察記録のまとめと省察

## 8) 取組の成果

- ・ FUNctions 開発の背景について話を聞き、実際に試行錯誤しながら遊んでみることで、静観した遊びと考えられてきた積み木に対するイメージが変化した。
- ・ 様々な協力機関からのアドバイスをもらい、その専門性と、木を保育・教育に活かす思いに共感し、よりよい積み木づくりについて考えることができた。
- ・ 積み木を介した協働的な遊びの意義や、環境設定の重要性について多角的な視点から学ぶことができた。

### 10/12 大阪教育大学 集中講義で



### 10/12 大阪教育大学 集中講義で

- お話を聞いて**ひとつの遊びをとことん追究することのおもしろさ**を感じました。今後、保育に携わる中で、柔軟な思考をもって遊具にも目を向けていきたいと思いました。(河盛心音)
- 協淵先生のお話を聞いて、積み木遊びの奥深さを知りました。**興味をもつ子どもが遊べばよいのではなく、どのようにしたら興味をもてるか**ということを追求されていて驚きました。また、先生の積み木でピタゴラスイッチを作ったことは、とても楽しく夢中になりました。(洲崎優実)
- 協淵先生のお話を聞いて、**ADHDの子どもたちも一緒に楽しく遊べるという点に興味をもち、素晴らしい教材だ**なと思いました。ADHDの子どもが積み木を壊してしまうという問題は、とても難しいことだと感じたのですが、ビー玉を使う積み木にすることで、ビー玉の動きに目がいき、今までとは逆にADHDの子が中心になって積み木で遊びはじめることがあることを知り、とてもおもしろいと思いました。(山口桃佳)



## 9) 取組の課題

大阪と岐阜県で、何度も対面で交流を行うことが難しい。また積み木を持ち運ぶことが困難であるため、交流には現地に向かう必要があった。

## 【D 野菜媒介交流プロジェクト(「野菜媒介交流」と略)】

### 1) 取組名 「野菜媒介交流」あるいは「野菜作戦」

### 2) 取組内容

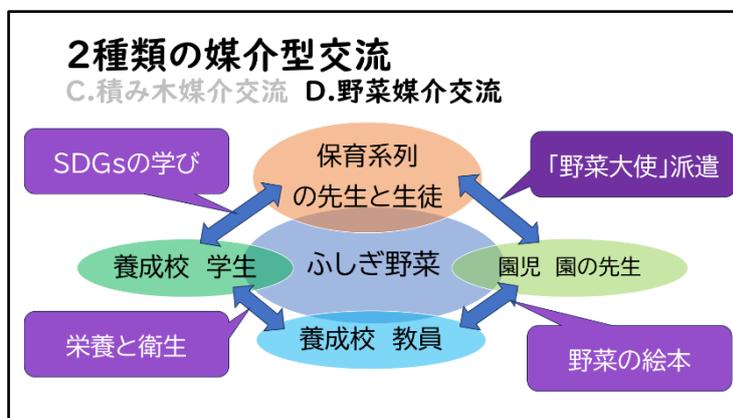
10月と1月の計2回、大阪市のS園で実施する。10月の野菜作戦では、岐阜県の野菜を使い、野菜を「見る」「触れる」「見立てる」「描く」という大きく4つの活動を行う。岐阜県のアキシマササゲやスクナカボチャという珍しい野菜も使う。この野菜に幼児がどのような反応を見せるのかを観察する。1月には、岐阜県のリンゴ、クウシンサイ、ダイコンをS園に持っていき、触れて、見立てる活動を行う。2回の「野菜作戦」を通して幼児が野菜に親しむ姿を観察し、食育に関する学びにつなげたいと考えた。

### 3) 取組の対象(参加者)

- ・養成校生(3回生5名)
- ・高校の生徒(1名)
- ・高校の先生(1名)
- ・S園の保育者(2名)
- ・S園の幼児(約35名)

### 4) 取組のポイント

- ・高校の先生の専門分野を活かした取組にする。
- ・すでに養成校との関係性があり、焼き芋などでの実績がある園で行う。



### 5) 取組の実施体制

- ・大学：イベント企画・運営
- ・高校及び園：連携協力

### 6) 取組の実施報告

- ・10月中旬下呂市、10月下旬大阪市S園、1月上旬大阪市S園で実施。
- ・益田清風高校職員と10月上旬から話し合い、10月下旬大阪市S園にて行った野菜プロジェクトの準備を進めた。
- ・10月下旬、1月上旬にて大阪市S園で、幼児に岐阜の野菜を紹介。幼児は岐阜の野菜を触ったり見立てたり食べたりした。
- ・大阪市S園にて行った野菜プロジェクトについての園だよりを作成し、保護者に配布した。

### 7) 効果検証の手法

- ・園児の作成する絵画、保護者の感想など。

### 8) 取組の成果

- ・野菜に触れ楽しみながら活動したことで、幼児が野菜に対して興味をもつ姿が見られた。

- ・高校の生徒が「野菜大使」として園を訪問し岐阜県や野菜について話をしたことで、幼児がスーパーで売られている野菜の産地をみたり、保育室に貼ってある日本地図を見たり、他県やその名産について興味を持つ幼児が増えた。
- ・野菜に対して苦手意識があった幼児が、野菜を食べてみたいと思っている姿もあり、幼児の好き嫌いの変化もみられた。給食についても、いつもおかわりしない子がおかわりしているといった様子も見られた。
- ・実際に自分の手で触れて匂いを嗅いで、野菜がどんなものなのかを知ることで、親しみをもつようになり、野菜についてのイメージが変化することにつながった。

## 10/12 大阪教育大学 集中講義で

○教職として働く上でモチベーションの保ち方のお話をして頂き、将来教職として働く私たちにとても学びになりました。また野菜のお話は岐阜高山ならではの野菜を知ることができました。細長いカボチャや湯上り美人のアキシマササゲは初めて知った野菜で、私自身も見てみたい、食べてみたいと思いました。(植村帆乃佳)

○丸山先生から学校現場でのお話や野菜のお話を聞かせていただき、中でも飛騨の野菜のお話はとても興味をそそられました。湯上がり美人のアキシマササゲは私自身も見てみたいですし、子どもたちが「茹でたら色が変わる野菜」を見たときに初めて見る野菜に驚くと同時に「色が変わるのって不思議」「おもしろい」と興味が湧いて、野菜に対する今までのイメージが変わるかもしれないと思いました。(南佳那)



### D. 野菜媒介交流

#### 【高校と園の交流と保護者への発信】



養成校の学生たちが、訪問の際の様子をもとに園だよりの号外を作成 保護者に配布

### 9) 取組の課題

大阪と岐阜を行き来することが難しいため、これからはオンラインでの交流ができるよう工夫が必要である。

## **【E 離職者インタビュー】**

### **1) 取組名 離職者インタビュー**

### **2) 取組内容**

園に勤務したあと、不本意な離職をした若い人にオンライン（基本声のみ）でインタビューをする。個人の要因ではなく「園がどうであったら、続けることができたのか」という園側の要因を中心に聴く。本人が自分の側の理由を話した場合には聞くが、こちらからは聞きださない。深い面接はしない。なるべくあっさり。一人あたり1時間以内。それを一人分1ページ程度にまとめる。

### **3) 取組の対象（参加者）**

- ・インタビュー回答者は大阪教育大学の幼児教育専攻の卒業生
- ・インタビュー実施者は、岐阜大学大学院生で戸田の集中講義の受講者3名

### **4) 取組のポイント**

- ・臨床心理士になる院生によるインタビューであったため、傾聴とケアが十分である。
- ・オンラインでの「仮名」「カメラオフ」でのインタビューができるように準備した。
- ・構造的なインタビューにすることで、量的な集計も可能にした。

### **5) 取組の実施体制**

- ・大学院生修士課程1年生3名がインタビューの実施とレポート作成を担当。
- ・大学院修士課程2年生1名が、レポート作成の助言を担当。

### **6) 取組の実施報告**

12月にフォームで卒業生に離職に関するアンケートを実施し、「管理職との相性」「同僚との相性」を離職理由として選択し、さらにインタビューに応じることを可とした3名にインタビューを実施。1名はメールのやりとりで行った。

インタビュー調査では、離職した園に関する情報を得るために6つの質問項目を用いた。それらの質問項目は、「互いに報告・連絡・相談のできている園であった」、「職員室で、笑顔が見られ、笑い声が聞こえる園であった」、「園児に関するかわいいエピソードが共有される園であった」、「職員が、互いの強みを知っていて助け合える園であった」、「職員の悪口や陰口はない園であった」、「保護者対応で助け合える園であった」の6つの項目から構成された。また、5件法（1.まったく当てはまらない、2.あまり当てはまらない、3.どちらともいえない、4.やや当てはまる、5.当てはまる）を用いて尋ねた。

結果より、「3. 園児に関するかわいいエピソードが共有される園であった」は比較的高い得点を示した一方で、「5. 職員の悪口や陰口はない園であった」は低い得点を示した。

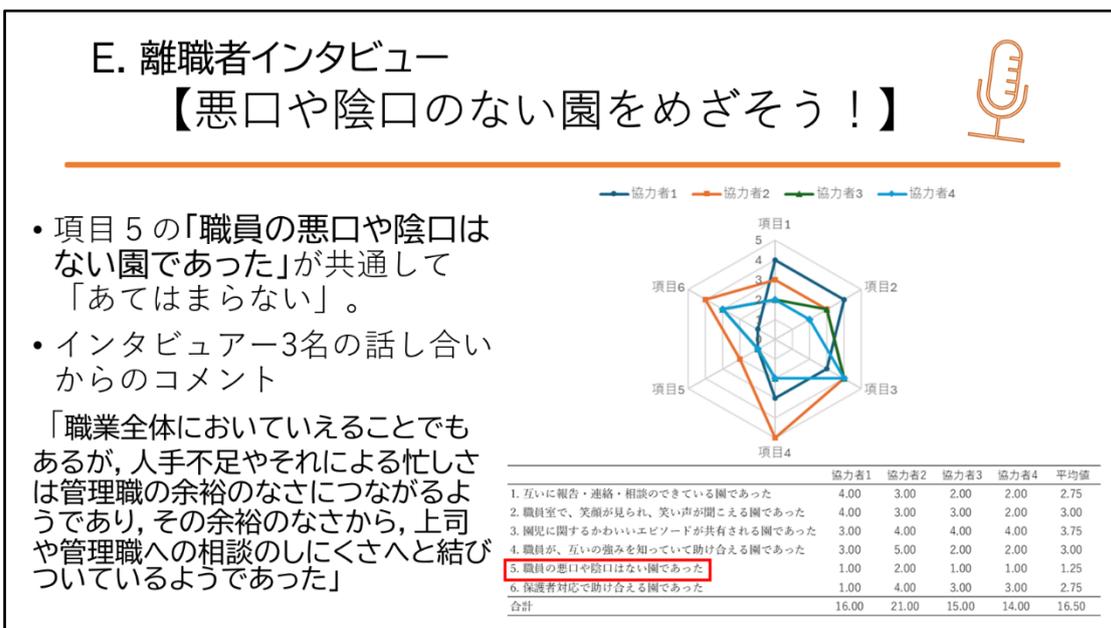
（詳細は、「参考資料2」）

### **7) 効果検証の手法**

特になし

## 8) 取組の成果

項目5の「職員の悪口や陰口はない園であった」が共通して「あてはまらない」という結果になったことから、卒業生が離職する園の共通項はこれであるという仮説を得ることができた。



## 9) 取組の課題

インタビューを実施できた人数が少ないため、今後、養成校の協働で、より多い人数での調査を実施する必要があると思われる。

### 3 事業全体のまとめ

#### 1) 事業全体スケジュール

事業全体の詳細なスケジュールは、参考資料 1 に示す。  
 ここには、全体の概観を示す。

	2024年					2025年				
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
A 集中講義	第1回	第2回	第3回			第4回	第5回	第6回	第7回	
B 授業交流		企画会		準備会	準備会	領域「環境」 (高山・下呂)		多様性 (下呂・高山)		領域「表現」 (下呂)
C 積み木媒介交流	企画会				加子母	タカラトミー	園訪問	園訪問	ざぶ木遊館	
D 野菜媒介交流						園訪問			園訪問	高校訪問
E 離職者インタビュー					企画会			実施	まとめ	
	報告会					中間報告会				最終報告会

図 事業全体の実施スケジュール

10月からの毎月の「集中講義」での多層型交流と、10月・12月・2月の「授業交流」での多層型交流を行った。9月から1月にかけて「積み木媒介交流」を行い、10月と1月に「野菜媒介交流」を行った。「離職者インタビュー」は、9月に顔合わせを企画会を実施し、12月にインタビューに応じてくださる方を募集するとともにインタビューを実施し、1月にその内容をまとめた。

#### 2) 事業全体の成果

事業全体の成果としては、以下のようにまとめることができる。

第一の目的である「養成校が連携し、地域全体の養成校受験者の総数を拡大」については、養成校の教員の連携は十分にできた。訪問先の高校での「保育系列選択者」は前年度から若干増加した。地域への情報発信はある程度できたので、今後、養成校受験者の総数拡大は期待できよう。一方で、イベントへの高校生の参加は十分といえず、また、近隣養成校・近県養成校の学生参加に関してはまったく成果があらなかった。

第二の目的である「養成校の学生や現職者の間、そして地域間の交流の促進」については、メディア取材は十数社に案内をしたものの1社（中日新聞）のみであり、協働した高校やニコリエ等以外の地元の幼稚園などの教育関係者の参加が極めて少なかった。

第三の目的である「離職した卒業生にインタビューをして要因を探る」では、有力な仮説を得ることができた。臨床心理学を学ぶ院生による実施は良かったと思われる。

また、事業の副産物として、論文の執筆、交流の継続、先生方の挑戦がみられる。

「論文の執筆」については、授業交流では、名古屋市立大学の先生方と院生の論考が校正段階になっている。積み木作戦では岐阜市内の園長先生が、野菜作戦では益田清風高校の先生が、活動の報告と成果を含む論文を執筆中である。離職者インタビューの結果に関しても、岐阜大学の院生による論考の執筆を検討中である。

「交流の継続」については、岐阜の園と大阪の園の交流及び、益田清風高校と大阪の園の野菜媒介交流が継続する予定である。

「先生方の挑戦」については、岐阜の園長先生が、この事業で出会った大阪総合保育大学の瀧川先生のご助言を得て、科研費（奨励研究）に申請した。今回は残念ながら不採択であったが、次回申請に向けて準備をしている。野菜媒介交流を主導した岐阜の高校の先生は、大阪教育大学の教職大学院を受験し、合格した。野菜媒介交流の継続に寄与すると期待できる。

### 3) 事業全体から見えてきた課題

事業全体の課題として見えてきたこととして、書類作成の負担が重かった。よって、令和6年度のような関西圏と中京圏を行き来する大交流は、継続は困難である。

また、地域の園の温度差が激しいことも痛感した。下呂市飛騨萩原のNPO法人「サン・はぎわら」の『ニコリエ』にはたいへんにお世話になり、週末に会場をお借りすることもでき、広報の支援もいただいた。しかし、高山市の幼稚園に関しては、個々に電話をしてメールをしても返信があったのは1園のみであった。その1園も、休日のイベントであることを理由に、1名の参加もいただけなかった。おそらく、自園のことで精一杯であることと、大阪や名古屋に対する抵抗があったのではないかと考えられる。岐阜県内の養成校を前に出す必要があったのではないかと思われる。

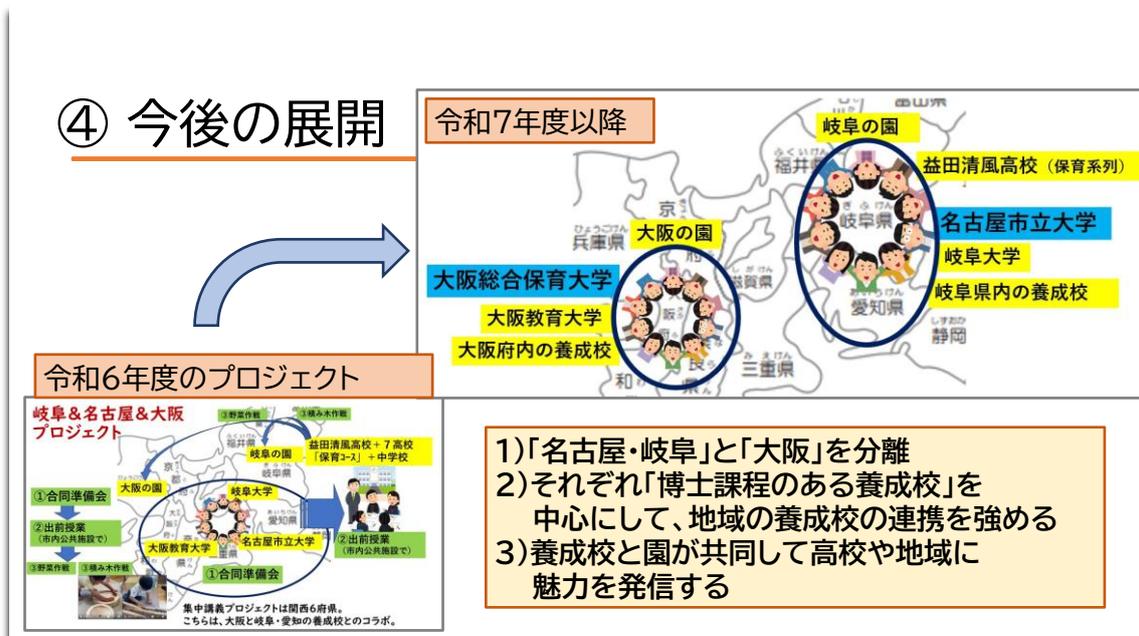
また、離職者の再就職支援については、ケアを含めてしっかりと考えていく必要があることが見えてきた。今後は、潜在保育士や園に勤務していない幼稚園教諭免許保持者に対して、キャッチアップ研修やマッチングといった取り組みに加えて、再就職後のフォローをどうするかといったことも含めて検討していく必要があるのではないかと思われた。

### 4) 今後の展開

令和6年度のプロジェクトは、大阪・岐阜・名古屋の養成校が協働してのプロジェクトであった。令和7年度以降は、保育者が進学できる博士課程のある大阪総合保育大学と名古屋市立大学を中心に、園と養成校と高校のつながりを、大阪と名古屋・岐阜の両方でさらに強め、ゆるやかに交流しながらそれぞれの地域で展開するというかたちで進めていくべく、すでに準備を開始している。

大阪総合保育大学は、大方学長先生にご相談をし、若手の先生中心の企画案のたたき台をもとに、学内での検討をすすめている。名古屋市立大学は、今年度も企画に参画された天谷祐子先生を中心に、すでに高校との打ち合わせも行っている。

本事業の令和7年度募集があれば、それぞれが応募する予定である。



## 参考資料1

事業全体のスケジュールを参加者は敬称なしで示す。

### 【事業開始前の準備段階】

- 5月12日(日) 協淵・瀧川(オンライン)・戸田  
いわのだこどもの森にて積み木作戦キックオフ
- 13日(月) 石丸・戸田 益田清風高校にて打合せ
- 6月8日(土) 協淵・石丸・天谷・岐阜大学院生・戸田  
岐阜市内にてキックオフミーティング
- 6月28日(金) 天谷・上田・戸田 名古屋市立大学にて打合せ  
〈ここまでは事業予算ではなく戸田の研究費で実施〉

### 【事業開始後の準備段階】

- 8月25日(日) 協淵・戸田 岐阜市内で積み木作戦打合せ
- 26日(月) 石丸・丸山・天谷・戸田 益田清風高校とニコリエで打合せ
- 27日(火) 石丸・松野・戸田 益田清風高校で2月の件の打合せ  
戸田 みなみこども園を見学
- 28日(水) 天谷・上田・院生・戸田 名古屋市立大学で打合せ
- 9月28日(土) 協淵・戸田・学生1名 いわのだこどもの森保育園：打合せ
- 29日(日) 協淵・戸田・院生3名・学生3名 岐阜市内で打合せ
- 30日(月) 協淵・戸田・学生2名 ニコリエと加子母森林組合で打合せ
- 10月11日(金) 協淵・丸山・戸田・学生(久保)  
大阪市内のホテルロビーで積み木作戦・野菜作戦打合せ
- 12日(土) 大阪教育大学にて昼食時等の打合せ
- |                         |          |
|-------------------------|----------|
| 3回生                     | 1回生      |
| 協淵先生：洲崎(積み木作戦チーフ)・河盛・山口 | 中井・三木    |
| 丸山先生：植村(野菜作戦チーフ)・南      | 河村・山田・下宮 |
| 丸山先生と中野先生(野菜作戦詳細打合せ)    |          |

### 【第1回多層型交流】領域「環境」

- 10月19日(土) 日比野・丸山・戸田・名市大(上田・天谷・清水)  
「村半」で学生と高校生(斐太高校)交流
- 20日(日) 石丸・丸山・協淵・瀧川・上田・天谷・清水・戸田+学生7名  
「ニコリエ」にて  
1時半 大学生と高・中・小・幼児の「わくわく科学体験」交流

- 3時半 大学生と高校生の懇談会  
21日(月) 戸田・学生5名 + 院生・高橋さん 岐阜市内で振り返りと打合せ  
洲崎(積み木作戦チーフ)・河盛・山口  
植村(野菜作戦チーフ)・南/河村・山田

#### 【中間報告会】

- 10月24日(木) 脇淵・戸田 打合せと発表準備・練習  
25日(金) 9時半～10時半 タカラトミー立石本社高橋様：ご相談  
11時半～12時半 新津勝二様(大阪教育大学元理事・事務局長)  
13:00～16:00 文科省中間報告会 戸田・脇淵  
18:00～ TBS 川上様・文科省堀家様

#### 【野菜媒介交流・積み木媒介交流】

- 10月28日(月) 丸山先生・生徒さん(野菜大使)  
植村・南・戸田 さくらんぼ保育園訪問にて野菜媒介交流(第一回)  
11月18日(月)～20日(水) 久保 いわのだこどもの森訪問：積み木媒介交流  
12月 2日(月)～ 4日(水) 久保・福栴・戸田  
ニコリエといわのだこどもの森訪問にて積み木媒介交流

#### 【第2回多層型交流】ダイバーシティ：しょうがいと共に生きる保育

- 12月14日(土) 飛騨萩原 午後6時半～8時 ニコリエ 「子育て体験交流会」  
山口歩さんご一家・新津事務局長・脇淵家・大阪の園の先生2名・  
戸田・学生7名 地元の子育て中のご家族など  
15日(日) 高山市 新津事務局長・園2名・戸田  
脇淵・大教大3回生5名+2回生2名(斎藤・水島)は下呂で交流  
16日(月) 脇淵・園2名・戸田 積み木の活用の検討

- 1月 8日(水) 丸山先生・学生5名 野菜媒介交流(第二回)  
植村・南・洲崎・山口・河盛・戸田 さくらんぼ保育園訪問  
9日(木) 丸山先生 3回生と4回生に講話  
1月17日(金) 学生(中筋) 益田清風高校：出前授業  
さくらんぼ保育園の先生方の高校訪問：野菜媒介交流(第三回)  
1月18日(土) 学生(中筋)と戸田 「ぎふ木遊館」：見学

#### 【第3回多層型交流】領域「表現」

- 1月31日(金) 朴・蔭山・谷本・松野・戸田 益田清風高校 出前授業

- 2月 1日 (土) 朴・蔭山・谷本・松野・戸田  
「高校の保育教育と音楽教育」実践交流会
- 2月 2日 (日) 朴・蔭山・谷本・天谷・戸田 次年度に向けての検討会  
1回生5名 (中井・三木・下宮・門居・吉岡)  
+ 3回生4名 (三崎・小路・中筋・池谷)

**【集中講義プロジェクト】**

- 6月15日 (土) 紺屋茉央 (大阪市立幼稚園教諭)
- 7月13日 (土) 辻裕菜 (こども家庭庁)・白石雅紀 (東京未来大学)  
ヘンケル敦子 (ドイツ在住)・吉田紘子 (神戸大学附属幼稚園教諭)
- 10月12日 (土) 辻裕菜 (こども家庭庁)  
丸山亜由美 (益田清風高校)  
脇淵爾良 (いわのだこどもの森 園長)  
中野 萌 (さくらんぼ保育園・副園長)  
野上千春 (博愛社こども園 園長)・吉岡柚葉 (保育教諭)  
池側心虹 (四天王寺大学短期大学卒・保育者)  
卒業生 (大森はんな・岡崎成志・岡崎 (峯) 彩摘・  
平田 (田中) 志織・寺口 (辻本) 知里・柳原 (水葉) あみ)
- 11月30日 (土) 坂口泰司 (鳥取こども学園)・下箱石華音 (高津学園)  
柴田依里 (大阪市立幼稚園教諭)  
白石雅紀 (東京未来大学)  
吉岡柚葉 (博愛社こども園・保育教諭)
- 12月21日 (土) 三木健郎 (岡山県備前市認定こども園園長)  
山口歩

**【インタビューの実施】**

- 早期離職者へのインタビュー実施：岐阜大学院生 (将来は臨床心理士)
- 9月29日 (日) インタビューの大枠の相談
- 12月4日 (水) フォームズでアンケート実施 回答くださる早期離職者探し
- 12月中旬 インタビュー開始
- 12月末日 インタビュー完了
- 1月末日 レポート完成

## 参考資料 2

### 離職者インタビューについての報告

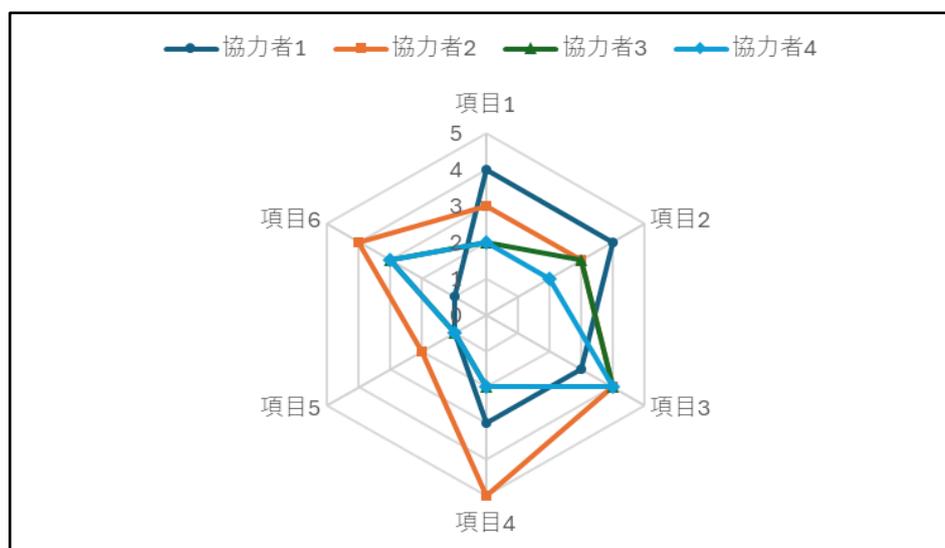
#### 1. 量的な結果に関する報告

本インタビュー調査では、離職した園に関する情報を得るために 6 つの質問項目を用いた。それらの質問項目は、「互いに報告・連絡・相談のできている園であった」、「職員室で、笑顔が見られ、笑い声が聞こえる園であった」、「園児に関するかわいいエピソードが共有される園であった」、「職員が、互いの強みを知っていて助け合える園であった」、「職員の悪口や陰口はない園であった」、「保護者対応で助け合える園であった」の 6 つの項目から構成された。また、5 件法（1. まったく当てはまらない、2. あまり当てはまらない、3. どちらともいえない、4. やや当てはまる、5. 当てはまる）を用いて尋ねた。各項目についてインタビュー協力者のローデータと平均値を Table 1 に示す。また、全体の傾向を把握するため、レーダーチャートを用いて Table 1 に記載する各協力者における 6 項目の得点を示す (Figure 1)。

Table 1. インタビュー協力者のローデータと平均値

	協力者1	協力者2	協力者3	協力者4	平均値
1. 互いに報告・連絡・相談のできている園であった	4.00	3.00	2.00	2.00	2.75
2. 職員室で、笑顔が見られ、笑い声が聞こえる園であった	4.00	3.00	3.00	2.00	3.00
3. 園児に関するかわいいエピソードが共有される園であった	3.00	4.00	4.00	4.00	3.75
4. 職員が、互いの強みを知っていて助け合える園であった	3.00	5.00	2.00	2.00	3.00
5. 職員の悪口や陰口はない園であった	1.00	2.00	1.00	1.00	1.25
6. 保護者対応で助け合える園であった	1.00	4.00	3.00	3.00	2.75
合計	16.00	21.00	15.00	14.00	16.50

Figure 1. 各協力者の 6 項目における得点

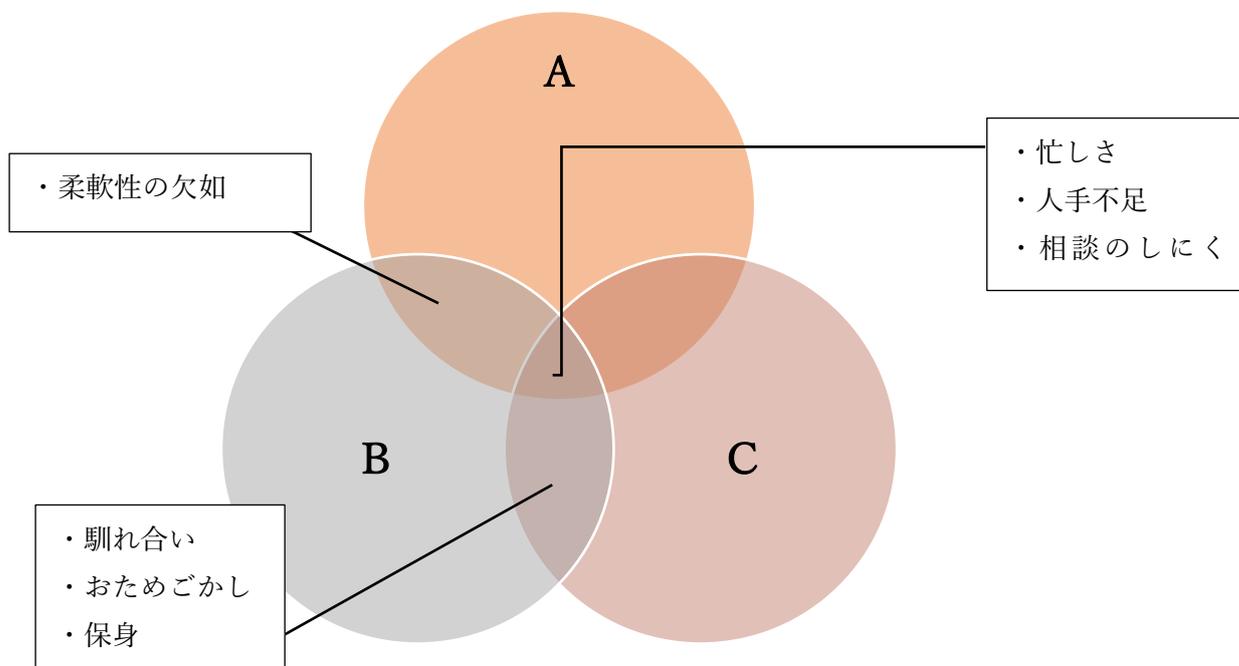


結果より、「3. 園児に関するかわいいエピソードが共有される園であった」は比較的高い得点を示した一方で、「5. 職員の悪口や陰口はない園であった」は低い得点を示した。

このことから、今回の調査協力者が離職した園では、園児に関するかわいいエピソードの共有がなされている等の一方で、教職員間での悪口や陰口が多く存在している環境であることが示唆された。他の項目においては、各インタビュー協力者によって回答にばらつきがみられた。Figure 1 においても、多くの協力者は平均値のレーダーチャートと比較的同じような項目 3 と項目 6 が高いような形を示すのに対し、協力者 2 のレーダーチャートの形は項目 1、2 が高くなっており、異なる形を示す。このことより、職場環境によって違いがあることが考えられるが、項目 3、項目 5 のように多くの園に共通する良さや問題があるという可能性も推測される。以下では、インタビューの内容をもとに離職者が語った園について理解を深めていく。

## 2. 質的な結果による考察

離職者にインタビューを行い、聞き手 3 名がインタビューの内容や会話をする中で感じた感覚における共通点を探するために話し合い、ベン図にまとめた。インタビューア 3 名がインタビューを振り返った結果、離職には主に管理職や上司にまつわる要因が共通してあげられるのではないかと考えたため、管理職のどのような要素が働きにくさや離職につながったのかを話しあった。



### 【インタビュー3名にとって共通した点】

教諭という職業全体においていえることでもあるが、人手不足やそれによる忙しさは管理職の余裕のなさにつながるようであり、その余裕のなさから、上司や管理職への相談のしにくさへと結びついているようであった。

### 【インタビュー2名（AとB）にとって共通した点】

柔軟性の無さが共通点としてあげられた。これは、「昔からこのようにやってきたのだからこうすべき」のような、若手教諭の意見を取り入れようとしめない姿勢や、若手教諭にとって意見が尊重されないと感じられる様子として、意見の取り入れや方針に柔軟性がないという観点が共通していた。

### 【インタビュー2名（BとC）にとって共通した点】

ここでは共通する点として3つあげられた。

#### ①馴れ合い

…管理職やベテラン教諭が若手教諭を排斥するような様子があったことが共通点としてあげられた。園内での悪口や叱責など、若手教諭が先輩教諭の輪に入れない状況が働きにくさや居心地の悪さに繋がっているようであった。

#### ②おためごかし

…「あなたのためを思って言っている」ということが実際は管理職や上司など言っている側にとっての保身に繋がっている場合や、「将来的に一人で仕事をできるようにならなくてはいけないから自分で考えるように」という指導姿勢が上司への相談のしにくさに繋がっているなど、“相手のため”の行動が実際は自分のためであったり、裏目に出てしまい連携の取りにくさになったりすることによって働くことを困難にさせていることが共通点として見受けられた。

#### ③保身

…保護者対応や他の園の力のある園長の存在など、管理職や他の教諭の保身のために保護者対応で守られず過剰な叱責を受けたり、働きにくさや苦しみを打ち明けることを制限されるといったことが見受けられた。